



## 精神科医によるソーシャルメディア配信のトリセツ誤解を解き、正しい知識を届けるためにー (広報委員会)

6月20日(金) 8:10～9:50 G会場

|             |                                                                                        |                                  |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 司 会         | (大阪医科薬科大学)<br>(早稲田メンタルクリニック)                                                           | 金沢 徹文<br>益田 裕介                   |
| 講 演 者       | (早稲田メンタルクリニック)<br>(国立精神・神経医療研究センター)<br>(筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学)<br>(信州大学医学部子どものこころの発達医学教室) | 益田 裕介<br>松本 俊彦<br>松崎 朝樹<br>本田 秀夫 |
| メインコーディネーター | (大阪医科薬科大学)                                                                             | 金沢 徹文                            |
| サブコーディネーター  | (早稲田メンタルクリニック)                                                                         | 益田 裕介                            |

近年、YouTubeをはじめとするソーシャルメディアは、情報収集や発信の手段として、人々の生活に深く浸透しています。精神医療においても、その可能性に注目が集まり、情報発信や患者とのコミュニケーションツールとして活用が期待されています。しかし、精神疾患に関する情報は、偏見や誤解を伴いやすく、ソーシャルメディア上での安易な情報発信は、患者やその家族への誤った認識の拡散、偏見の助長、ひいては治療への抵抗感を生み出す可能性も孕んでいます。そこで本ワークショップでは、精神科医がソーシャルメディアで情報発信を行う際の注意点、倫理的な問題、効果的な情報発信の方法などを、具体例を交えながら考え、ひいてはソーシャルメディア発信における「取扱説明書」の作成を目指したいと考えています。

### 期待される効果

- ・精神科医がソーシャルメディアを倫理的に、効果的に活用するための知識・スキルの習得
- ・精神疾患に関する正しい知識の普及と、偏見や差別解消への貢献
- ・精神医療に対する理解を深め、患者と社会の距離を縮める一助となる
- ・目的はガイドラインの叩き台の作成

### 対象者

- ・ソーシャルメディアでの情報発信に関心のある精神科医、および医療従事者

### 開催形式

- ・形式：講義形式、質疑応答、グループワーク
- ・参加：事前登録制
- ・定員：約30名、各施設1～2名に限定。チャンネル登録者数の多い発信者の参加が好ましい。

### プログラム内容

- ・講演1：精神医療におけるソーシャルメディア活用の現状と課題
  - 講演者：益田裕介先生（早稲田メンタルクリニック）
- ・講演2：精神科医のためのソーシャルメディアガイドライン
  - 講演者：松崎 朝樹（筑波大学精神神経科）
- ・講演3：効果的な情報発信と炎上対策
  - 講演者：本田秀夫先生（信州大医学部附属病院）
- 指定発言者 松本俊彦先生（NCNP）
- ・グループワーク：想定されるケーススタディとトリセツとしてのガイドライン
- ・質疑応答：参加者からの質問を受け付け、講師陣、座長などが回答

### 備考

- ・本ワークショップは、日本精神神経学会広報委員会の後援のもとに開催いたします。